

報道関係者 各位

平成23年6月24日 日本科学未来館

常設展示のリニューアルについて

新規展示「2050年くらしのかたち」「アナグラのうた～消えた博士と残された装置～」 平成23年8月21日(日)公開

日本科学未来館(略称: 未来館、館長: 毛利衛、所在地: 東京都江東区青海)は、3階常設展示フロアをリニューアルし、2つの新規展示「2050年くらしのかたち」、「アナグラのうた～消えた博士と残された装置～」を8月21日(日)から一般公開します。

常設展示「技術革新と未来」エリアに新設される「2050年くらしのかたち」は、「ひとりひとりの願いが広がる未来」をコンセプトに、持続可能な社会をつくるライフスタイルと、それに必要な科学技術をとともに考える展示です。都市環境やバイオテクノロジー、材料科学など幅広い分野の研究者40名のインタビューにもとづき、「地球はひとつしかない」という条件のなかで私たちが「より豊かに生きたい」という願いをこれからも実現していくためのヒントを、2050年の人々の暮らしを通じて紹介します。展示では、新しい科学技術が溶け込んだ2050年の架空の都市「いとおか市」での人々のくらしを、AR(拡張現実)技術(*)を使った端末でのぞき見るすることができます。展示体験をより深めるためのウェブサービスも開始。科学トピックの詳細や体験履歴を閲覧できるほか、展示端末の操作と連動して変化する、「いとおか市」の人口やリサイクル率などのデータを見ることができます。

常設展示「情報科学技術と社会」エリアに追加される「アナグラのうた～消えた博士と残された装置～」は、空間情報科学をテーマにした体験型の展示です。私たちはすでに、携帯電話や電子マネーの使用履歴から、自分がどこにいて何をしているのか、記録されているといえます。近い将来には、座ったり歩いたりといった何気ない動作が、センサーにより計測され、データ化、蓄積されて、安全・快適な行動のための情報提供や生活習慣病の予防などに役立てられると期待されています。新しい展示では、「アナグラ」を舞台にした空間で、体験者の動きや生体情報にあわせて映像や「うた」のコンテンツが生成され、情報という誰もが持つ「資源」が社会に役立てられるさまを、うたの生成になぞらえて体験できます。個人の持つ無限の情報を、いかに社会で共有するのか、あるいは保護するのか、直感的に経験し考えることができる展示です。

* 現実環境の知覚情報にコンピューターからの情報を重ね合わせる技術。この展示では、端末のカメラのモニター映像に重ねて、その場所に住む「いとおか市」の市民キャラクターが現れます。

日本科学未来館基本情報

開館時間	10:00—17:00 (入館は閉館時間の30分前まで)
休館日	毎週火曜日、12/28～1/1(ただし祝日、春・夏・冬休み期間は開館)
入館料	大人600円/18歳以下200円 ※企画展は別料金 ※障害者手帳所持者は本人および付添い者1名まで無料
館内施設	ミュージアムショップ(1F) 10:00—17:00 ファストフードショップ「LOTTERIA@miraikan」(1F) 9:00—19:00 カフェ(5F) 10:00—17:00 授乳室Baby's Cafe(ベビーズ カフェ)(5F) 10:00—17:00 レストラン「LA TERRE」(7F) 11:00—18:00

※電力事情やその他状況により、開館日、営業時間等が変更になる可能性があります。随時、未来館ホームページにてお知らせします。

URL: <http://www.miraikanjst.go.jp>

※本件に関するプレスリリース、及び関連画像は未来館ホームページよりダウンロードしてご利用いただけます。

URL: <http://www.miraikanjst.go.jp/press/>

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 TEL: 03-3570-9151 FAX: 03-3570-9150 URL: http://www.miraikanjst.go.jp	日本科学未来館 事業推進課 プロモーション担当 (press@miraikanjst.go.jp) 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL: 03-3570-9192 FAX: 03-3570-9150

[詳細]

「2050 年らしのかたち」

■展示ストーリー

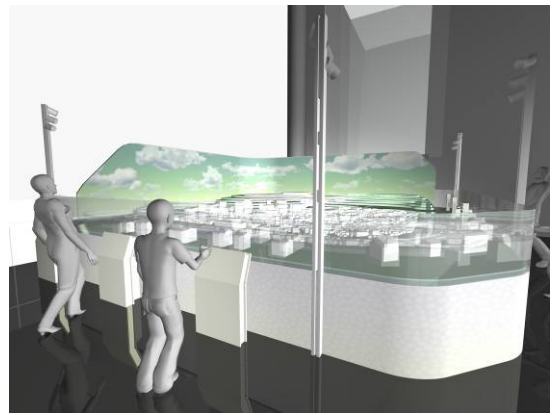
2050 年の架空の都市「いとおか市」は、美しい海と里山に囲まれた人口およそ 10 万人の都市。衣・食・住、交通インフラ、エネルギー、医療・健康などの科学技術が暮らしに浸透したことで、持続可能な社会が実現し、人々はいくつもあるライフスタイルから自分にあったものを選び、楽しみを見出して暮らしています。「いとおか市」の人の話やふるまいから、この都市で科学技術がどのように使われているか観察してみましょう。そして、自分の理想とする社会を実現するためにはどんな科学技術が必要かを考えてみましょう。

■特徴

「いとおか市」を一望できる模型の横にある操作端末では、この都市で暮らす約 60 人のキャラクターを、位置認識 AR 技術によって映し出します。また、ウェブとも連動し、展示で体験した科学トピックやいとおか市のようすを、インターネットを通じてより深く理解することができます。さらに、2009 年 2 月に展示を終了した「みらい CAN マグレブ」が新しくなって登場。超伝導のピン止め効果を利用して浮上走行する鉄道模型を間近で見ることができます。

■展示概要

場 所 3 階 常設展示「技術革新と未来」内
 展示床面積 約 120 m²
 総合監修 大垣眞一郎
 (独立行政法人国立環境研究所 理事長)
 美術監督 種田陽平
 企画・制作 日本科学未来館



展示イメージ CG

「アナグラのうた～消えた博士と残された装置～」

■展示ストーリー

いまから 1000 年後、ここはかつて空間情報科学の博士たちの研究所だった場所「アナグラ」。足を踏み入ると、自分の情報が「ミー」という影に似た姿で足元に現れます。アナグラでの行動は全て情報となり、情報がミーを変化させていきます。そして、アナグラに残された 5 つの「装置」との対話をおして、空間情報科学の重要な技術が明かされていきます。最後の装置との対話を終えると、自分の情報は音楽となって、アナグラに響きわたるのです。

■特徴

体験者の位置計測のためレーザーセンサーを導入。複数の体験者の動きを精細に測定することを可能としました。また「うた」は、歌声合成技術をもつヤマハ株式会社の協力により、インタラクティブかつ自然な歌声の自動生成を行っています。展示の演出にはビデオゲーム制作に関わるクリエイターや開発者が参画。エンタテインメント業界とのコラボレーションより、他に類を見ない物語性、対話性の高い体験型展示が実現します。

■展示概要

場 所 3 階 常設展示「情報科学技術と社会」内
 展示床面積 約 150 m²
 総合監修 柴崎亮介
 (東京大学 空間情報科学研究センター 教授)
 演出 飯田和敏
 (株式会社グラスホッパー・マニファクチュア)
 歌声合成特別協力 ヤマハ株式会社
 企画・制作 日本科学未来館



展示イメージ模型